

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	野添 生
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>理科教育におけるカリキュラムの統制過程に関する研究</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教授 磯崎 哲夫</p> <p>審査委員 教授 池野 範男</p> <p>審査委員 教授 深澤 広明</p> <p>審査委員 教授 林 武広</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本研究は、理科カリキュラムとそれを取り巻く人々との関係性を「統制過程」という側面で捉え、International Association for the Evaluation of Educational Achievement（以降、IEA とする）が捉えているカリキュラムの各段階において、理科カリキュラムが統制されていく様相を多様なアプローチから考究し、新しい知見として「理科教育におけるカリキュラムの統制過程」を導出することを目的としている。本論文は、序章と終章を含めて、5章で構成されている。</p> <p>序章では、本研究の背景と問題の所在、研究の目的、研究の方法および全体構成について論じている。</p> <p>第1章では、カリキュラム作成者へのインタビュー調査と文献調査を中心に、「意図した（Intended）理科カリキュラム」である日本の学習指導要領やイギリスのナショナル・カリキュラム（以降、NC とする）における教育内容の設定基準やカリキュラム改訂・作成過程の背後関係を明らかにしている。日本の事例研究では、「問題解決」、「探究」をキーワードとして、中学校理科が小学校と高等学校の狭間において、その時代背景や教育思想を鋭敏に反映していたことや、昭和 43、44 年の小学校・中学校の学習指導要領改訂における欧米諸国の科学教育改革運動（教育内容の現代化）による影響の差異を指摘している。また、イギリスの事例研究では、NC 科学初版の作成過程の背後で働いていた科学作業部会の専門的統制と、教育科学省を中心とする政府側の官僚的統制とのせめぎ合いを明らかにしており、日本とイギリスの事例から、理科カリキュラムの改訂・作成段階で作用する外在的な統制過程について論考している。</p> <p>第2章では、日本とイギリスの理科教師に対して実施したアンケート調査とその分析を中心に、「実施した（Implemented）理科カリキュラム」である理科教師が有する指導観、授業デザイン、授業形態の傾向を明らかにしている。また、それらの調査結果を統計的に分析し、理科教師により共有される「教科のパラダイム」や「教科によるパースペクティブ」といった視座から、教師が授業を行う段階で作用する媒介的な統制過程について論じている。</p> <p>第3章では、理科授業実践研究を中心に、「達成した（Attained）理科カリキュラム」で</p>			

ある理科授業で獲得された知識やスキルに対して、影響を与えた要因を明らかにしている。具体的には、「学習者が有する自信度」や「社会的文脈と認知的文脈の相互作用により学習者自身が再構築する能動的学習」といった視座から、生徒が理科を学習する段階で作用する内在的な統制過程について論じている。

終章では、研究成果である理科カリキュラムの3つの層における統制過程を整理した上で、総合的考察として以下の3点についての総括を行い、新しい知見として「理科教育におけるカリキュラムの統制過程」の全体像を導出している。

- ①「意図した理科カリキュラム」に関わる作成者は、政治的状況下に身を置きながらも、実際に理科カリキュラムが形成されるプロセスにおいては、主として、その時代の背景や教育思想といった社会的状況に起因する統制の影響を受けていること。
- ②「実施した理科カリキュラム」に関わる理科教師は、社会的状況下に身を置きながらも、実際に理科カリキュラムが形成されるプロセスにおいては、主として、文化的状況に起因する統制の影響を受けていること。
- ③「達成した理科カリキュラム」に関わる学習者は、文化的状況下に身を置きながらも、実際に理科カリキュラムが獲得されるプロセスにおいては、主として、認知的状況の影響を受けていること。

本論文は以下の3点において特に評価できる。

1. 分析する対象に合わせて主軸となる研究手法が設定され、理論的、実証的、実践的なアプローチから理科カリキュラムを多面的に分析することで、研究の精緻化が図られており、理科教育の研究方法としての新規性が認められる点。
2. カリキュラムを「統制過程」というキーワードから新たに捉え直すことにより、これまでの研究では等閑視されていた理科カリキュラムの意味や本質を考究しており、理科教育研究としての独創性が認められる点。
3. IEA が捉えている3つの層に区分された理科カリキュラムと、それらに関わる主体者集団との相互関係を「政治的状況」、「社会的状況」、「文化的状況」、「認知的状況」という側面から整理・総括し、「理科教育におけるカリキュラムの統制過程」という新たな知見を、本研究の総合的考察の成果として導出している点。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 28 年 2 月 10 日